北アルプス　剱岳

窪田　道男

■山行年月日：2019 年 7 月 28～31 日
■メンバー：大竹幹衛　宮城市作
　　窪田道男
■コースタイム：28 日　会津（4:00）～立山ケーブル駅駐車場着（7:40）～ケーブル乗車（9:20）～室堂平（10:15－11:00）～剱御前（14:00）～剣山荘（15:30）
29 日　剣山荘（6:05）～長次郎谷出合（7:20）～5，6 のコル（10:50）～6鋒 C フェース剣陵会ルート池ノ谷コル（17:30）
30 日　池ノ谷コル（6:05）～長次郎谷コル（7:40）～剱岳山頂（8:15）～剣山荘（12:45）～剱御前（14:45）～雷鳥荘（17:15）
31 日　雷鳥荘（7:35）～室堂平（8:00）～会津（16:00）

剱、長次郎谷,6 鋒 C フェースは、わたしが 48 年前、大学入学最初の大学山岳同好会前期夏合宿 3 週間、最初の一歩であり、私の人生のエポックの第一歩でもあった。6 年後のヒマヤラ遠征、シルクロード放浪へ向かう扉となる。私にとって、そんな熱い思い入れがあっての山行なので何とも感慨深い。幹衛さんにとっても、幹衛さんなりの思い入れがわたしと合致して山行が計画されることになった。
28 日早朝、予定の 4 時より皆早く北会津の幹衛さん宅へ集合し、早々に会津を出発。やや曇り空のなか、高速を快調に飛ばし、立山ケーブル駅につくが、近くの駐車場は満杯である。なので、少し離れた草地の駐車場に駐車し準備を整える。夏休みなので大混雑を覚悟していたが、ケーブル駅での待ち時間もなくケーブルに乗車できた。バスを乗り継ぎ順調に室堂平に到着する。やや曇り気味で残念ながら剱岳は顔を見せていない。夏休みで、たくさんの登山者がいるが、昔のような大学山岳部の合宿で大きな荷物の集団や、むさくるしそうないかにもヤマヤという風体のひとは見当たらず、きれいでおしゃれな若い女性や高齢団体登山者が多くみられる。
さて、わたしたちも早々に準備をして歩き始めるが、ガスがでて見通しもあまりない。みくりが池あたりは硫黄の臭いで苦しいくらい。老齢ぎみのメンバーなのでゆっくりゆっ

剣沢を下る

クレオパトラニードル

くり。天候があまりよくなくても雷鳥沢テント場は、色とりどりのテントがいっぱい張ってあり、まだ昼過ぎなのにたくさんの人がくつろいでいる。いよいよ登り坂で歩きにくいゴーロ状の登山道を歩む。宮城さんは、山の花が現れるたびに写真撮影に忙しい。わたしは、ガスの中で内なる自身との対話に忙しいので立ち止まらずゆっくり歩くのが好きだ。暫くして雨模様の中、剱御前に到着。寒いので、早々に今晩の宿の剣山荘へのトラバースルートを下っていくと、沢沿いの雪渓が出始める。ラバーソールの沢靴なので滑りやすいが、ステップが切ってあるので歩きやすい。きっと登山初心者用の準備で、小屋の人がシーズン中は整備しているのだろう。小屋に着いたら沢山のお客さんでいっぱいであるが、若い女性のなんと多いことか。

29 日、(今回、私にとって一つのひっかかりは山小屋で食事つき、暖房入りの快適生活ということがある。私の山への向き合い方の方針とは矛盾する。ただ今回の報告ではスルー)朝食後、剣沢へ向かってハイ松帯を下降する。相変わらずガスって天候は思わしくない。剣沢の雪渓でアイゼン装着。誰もいない中、快調に雪渓歩きで長次郎谷の出合着。小雨模様。ここからの八ッ峰も雲の中。素晴らしい景観が広がるはずなのが残念。人っ子一人いない。昔はクライミングに向かうパーティーが上部までたくさん見られ、真砂沢のキャンプ場からのクライマーが多かったが、だれも上がってこない。結局、熊の岩に一張りのテントのパーティーのみ。軽アイゼンで雪渓を亀の歩みで六峰 C フェース基部まで順調に標高を上げる。このあたりでやっと日差しが出てきて八ッ峰の全貌が現れた。ここで昼食を摂りクライミングに備える。久しぶりにロープをつけてクライミング開始。晴れ間の中、気持ちのいい出だしである。易しい岩場なので快調にロープを伸ばすが、ハイ松帯部分でルートを間違いハイ松漕ぎで快適なリッジ、カンテ部分をスルーしてしまったのが残念であった。ここから八ッ峰上部の岩場を越していくが、途中から小雨模様となり視界が悪くなる。この辺りは岩峰の景観が素晴らしいはずなのに、ガスと雨で何とも悔いの残るところであるが、滑るので気を抜けない。懸垂など繰り返していくうちに雨が強くなり、パンツまでびしょぬれで寒い。なんとか池ノ谷のコルにたどり着き、狭いコルでビバーク。雪渓が近くにあるので水には困らないが、寒さで眠れない一夜を過ごす。夜景も相変わらずのガスで何も見えない。

剱山頂

30 日、天候曇りであまり視界がない。カップラーメンの簡単な朝食後、剱岳に向けて目の前の岩場にとりつく。長次郎谷のコルをへてガスの中の剱岳の頂上近くで、山岳パトロールの人たちとすれ違ったが、話では、昨日、午後に曇り空の中ヘリの音がしたのは、源次郎尾根で動けなくなった登山者を救助したとのこと。動けなくなった理由が、技術的な問題とは何とも情けない話である。剱岳の頂上は、沢山の登山者が記念撮影の順番待ち状態。その後、一般道をたくさんの登山者と一緒に一下っていくと、一服剱当たりで久々の晴天となってくる。夏の暑さは爽やかであるが、暑いと消耗するものだ。ゆっくりゆっくりで雷鳥沢へと下山した。ふらふらで雷鳥荘着。次の日になってひさびさ天気回復した中、またいつ来られるか、立山高原バスに揺られながら眺める晴れ渡った山並みは昔と変わらない。

久しぶりの長期山行でしたが、気持ちに身体がなかなか付いてこないのがなんとも歯がゆい。予定のルートを歩けたけれど、まだいろいろルートを考えて心を残しておけば、またここに来られるかもしれないと。

六峰 C フェース